

個別支援計画

1 年 組 (6 才 2 カ月) 氏名 幌 延 太 郎

作成日 年 月 日 記入機関・記入者：担任

本人・保護者の希望・願い

- ・(本人) ボールで、みんなと遊びたい
- ・(保護者) 家族や先生だけでなく、友だちと遊べるようになってほしい

支援機関の意見

- ・自分の想いを表現できるようになってほしい。
- ・仲間の中で、よさを発揮できるようになってほしい。

課題の解決に活用できそうなこと(よさ・できること)

- ・時間の見通しをもたせることで、安心して生活できる。
- ・自分の気持ちや周囲の状況に気づけるようになってきた。
- ・計算に自信を持っている。

取り組むべき課題・取り組めそうな課題(気になること)

- ・言葉より先に行動が出てしまい、トラブルになることが多い。
- ・不安なことがあると、活動に取り組めない。
- ・長文を読むことや文章問題に取り組むことが苦手である。
- ・ボディイメージが弱く、動きにぎこちなさを感じられる。

長期目標：(1) 年後を見通した目標

- ・周囲の状況や自分の感情に目を向けて、行動をコントロールできるようにする。

本人への働きかけ

支援の手立て

環境調整の工夫

- ・行動そのものを否定するのではなく、背景要因に目を向け、本人の思いを尊重しながら、プラスに評価をする。
- ・適切な関わり方を事前にシミュレーションする時間を確保する。

- ・学習の始めに、見通しのある工程表を示す。
- ・説明をする時には、絵や図・文字で視覚的に示す。
- ・仲間の様子を言語化して伝える。

	短期目標 (学期ごとの学習・生活面の目標)	支援の内容、方法	○変化が見られたこと △課題となったこと
前期	・困っている状況を言葉で表せるようになる。		
後期	・「感情レベル表」を活用し、自分の状況を視覚的に把握できるようにする。		

成果

取り組んでみてどうだったか(評価日：〇〇年〇〇月〇〇日)

課題(引継ぎ)

〇月〇日：運動会の総練習では、事前にシミュレーションした関わり方ができた。できたことをしっかりほめたところ、本人も満足し、意欲的に取り組む姿がみられた。

〇月〇日：休み時間に遊んでいる時、楽しくなりすぎて、何度も友達にしつこくしてしまった。相手の気持ちに目を向けて適切な関わり方を考えることができるように、シミュレーションで学んだことを振り返ることが大切である。